

言い切りと活用を見比べる

図解と例題 | 文の中での働きを確かめよう

見分ける順番

- ①性質や状態を表す自立語か確かめる。
- ②言い切りの形を作る。形容詞は「い」、形容動詞は「だ」で終わる。
- ③文の中でどの形に変化しているか、後ろに続く語と合わせて見る。

活用の見取り図

活用形	形容詞「高い」	形容動詞「静かだ」
未然形	高かる（う）	静かだろ（う）
連用形	高かつ（た） 高く（なる）	静かだっ（た） 静かで（ある） 静かに（話す）
終止形	高い。	静かだ。
連体形	高い（山）	静かな（町）
仮定形	高けれ（ば）	静かなら（ば）
命令形	なし	なし

単語の範囲に注意

「高かった」は「高かつ／た」、「静かだった」は「静かだっ／た」。後ろの「た」は助動詞で、活用する一語には含めない。

「静かに」の「に」は形容動詞の活用語尾。一語の「静かに」を途中で分けない。

同じ働きでも品詞は違う

「ゆっくり歩く」の「ゆっくり」は活用しない副詞。「静かに歩く」の「静かに」は「静かだ」と活用する形容動詞。修飾先だけで品詞を決めない。

例題で確認

「新しい道具を、大切に使う。」

新しい → 形容詞「新しい」の連体形。道具という名詞に続く。

大切に → 形容動詞「大切だ」の連用形。使うという動詞に続く。